相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会

相双COCOROニュースなごみ

第８号　H26 年２月７日　隔月発行
発行元　相馬広域こころのケアセンターなごみ　編集部
ホームページ　http://nagomi.soso-cocoro.jp
Facebook ページ　http://on.fb.me/SQ56Ju

つくる会　次のステージへ！

早いもので、まもなく平成 25 年度も終わろうとしています。
現在、当法人では「訪問看護ステーションなごみ（仮称）」の来年度開設及び認定 NPO 法人認可に向けて、手続きを行っています。
来年度からは、「NPO 法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会（相馬広域こころのケアセンターなごみ）」と「訪問看護ステーションなごみ」の 2 つの看板を掲げて、より幅広い支援を相双地区に届けられたらと思っております。
また、認定 NPO 法人に認可されることによって、法人としての社会的な信頼を得られることや、税制面でのメリットが高く、より支援をいただけることなどが予想されます。

震災から間もなく３年が経とうとしています。３年という月日を経て、当法人も次のステージへ進もうとしています。
これからも相双地区の精神医療保健福祉システムの復興に向けて、スタッフ一同力を合わせて皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。
今後とも変わらぬご支援・ご指導のほど、よろしくお願い致します。

ふくしまから
はじめよう。
Future From Fukushima.

NPO 法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
相馬広域こころのケアセンターなごみ　　スタッフ一同

相馬警察署から感謝状をいただきました！

昨年末、訪問対象者の方が振り込め詐欺の被害に遭いそうになったところ、訪問していたスタッフの適切な判断により、被害を未然に防ぐことができました。
そして、相馬警察署にて感謝状をいただきました。相馬市でも詐欺の被害が増えている中、このように防犯に協力できたことを嬉しく思います。
これからも、地域の皆さんの力になれるように頑張っていきたいと思います。

（写真　相馬警察署での表彰式の様子）

なごみ CLUB からプレゼント

今回、同封した楊枝入れは、「なごみ CLUB」のメンバーさんが活動の中で制作したものです。
会員の皆さんになにか小さなプレゼントを贈ろう！という案が出てから、メンバーさんとなごみスタッフで、何をつくるか、何度も試作を繰り返してこのシャツ型の楊枝入れに決まりました。1 月末までにできるかなという不安もありましたが、コツコツと作ること 500 個！最後に一つ一つ袋詰めをして、皆様のところにお届けすることができました。
封筒の宛名シール張りや封印もなごみ CLUB のメンバーさんが作業してくれました。このような形で社会とつながりを持つことが、障害をもつ方の回復につながることを期待して、今後もなごみ CLUB を続けていきたいと思います。　　（文責　河村）

多文化間精神医学会の皆さん 素敵なイベントをありがとうございました！

平成 26 年 1 月 12 日、多文化間精神医学会が企画した大野台第１仮設住宅でのイベント「新年会」を行い、餅つきやカルタ遊びを楽しみました。
仮設住宅の住民の方約 50 名以上が参加してくださり、食事の準備、会場設営はもちろん、イベント中もみんなで盛り上がり、１人１人の楽しそうな顔を見ることができ大変嬉しく思いました。
イベントは、なごみの活動で普段会えない方たちともお会いすることができる場として、重要な行事だと思います。
残念なことに今回のイベントで多文化間精神医学会の支援が終了となりました。今まで行ってきた様々なイベントを通じ、住民の方々との絆を深めることができたと思います。

多文化間精神医学会　これまでのイベント

平成 23 年　８月	相馬市大野台第 1 仮設住宅「盆踊り大会」（鎮魂祭）
平成 23 年 11 月	相馬市大野台第 1 仮設住宅「芋煮会」
平成 24 年　８月	相馬市大野台仮設住宅「相馬盆踊り大会」
平成 24 年 11 月	相馬市大野台第 1 仮設住宅「芋煮会」
平成 25 年　８月	相馬市大野台第 1 仮設住宅「夏祭り」
平成 26 年　１月	相馬市大野台第 1 仮設住宅「新年会」

多文化間精神医学会はこの他にも相双地域に来られ、
震災後まだ避難所があった時からイベントを開催しています。
一緒に活動することができ、文化的イベントの重要性を知りました。
どうもありがとうございました。　　（文責　須田）

講演会「熊本モデルから学ぶ　認知症の方へのアウトリーチ支援」

2014. 1. 29.　於　南相馬市民会館

１月29日（水）に、熊本県桜が丘病院の小林幹穂先生、PSW大嶌高昭さんをお招きし、「熊本モデルから学ぶ　認知症の方へのアウトリーチ」というテーマで講演をしていただきました。当日は、主に相双地域の保健師、包括支援センターの職員、病院のスタッフ等合わせて26名の方の参加がありました。

前半は、小林先生による「熊本モデル」と呼ばれる、熊本県における認知症対策のお話をしていただきました。また、桜が丘病院のメンタルヘルス協議会の立ち上げから関わっていらっしゃる大嶌さんより、地域メンタルヘルス連携会で行っている勉強会の紹介をしていただきました。

後半は、各グループに分かれて「認知症か否か迷うケース、受診につながらないケース、この地域の課題」というテーマでグループワークを行いました。日頃から困っていることや悩んでいることを出し合い、その内容から「相双地区の課題」をまとめ、最後に発表していただきました。参加された皆さんそれぞれが積極的に意見を出し合い、共通して「診療機関が少ない」「精神科に抵抗がある方が多い」「家族への心理教育が必要」等という意見が挙げられました。

（写真　グループワークの様子）

小林先生には、今後も相双地区に支援に入っていただき、事例検討会や勉強会を通して、認知症の方への支援についてご指導いただく予定です。

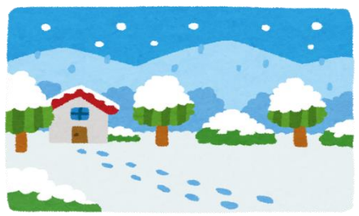
今後も、事例検討会や勉強会を開き、みなさんと一緒に地域の課題について解決できるような機会を積極的に設けていきたいと思います。

（文責　菜摘）

相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会　会員大募集！

本会の趣旨に賛同し入会していただく正会員・賛助会員を募集致します。

1．正会員　　年会費　一口 10,000円
2．賛助会員　年会費　　一口 3,000円



現在会員の方は、来年度も継続してご入会いただきますようお願い申し上げます

申し込み方法

① 正会員または賛助会員・氏名・住所・所属先・職業・電話番号・メールアドレスを明記の上、下記住所に申込書を郵送またはFAXしてください。

お振込み先　東邦銀行　相馬支店　普通預金
口座番号：1044879
口座名義：特定非営利活動法人
相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
理事長　大川貴子

郵便振込の場合
口座番号：02260-0-126825
口座名義：特非　相双に新しい精神科医療保健福祉をつくる会
（東邦銀行口座と名義が異なりますので、ご注意下さい）

② 以下のホームページアドレスから申し込むこともできます。
http://soso-cocoro.jp/（Paypal決済も可能です）

※会員になってくださった方には、定期的に会報や現地の情報を送らせていただきます。是非ご検討下さい。

お問い合わせ

〒976-0016
福島県相馬市沖ノ内１丁目2-8
電話　0244-26-9753
FAX　0244-26-9739
担当　佐藤里美・佐藤菜摘
アドレス　nagomi@soso-cocoro.jp

東日本大震災長期支援のための　国際遠隔連携シンポジウム
Union is Power 全生活支援の中でのメンタルヘルス専門家の役割と国境・県境を越えた学際・職際を考える
こころがけ・つくる会　交流会

（写真　シンポジウム、交流会の様子）

平成25年12月15日（日）に、NPO法人 心の架け橋いわて（以下こころがけ）主催のシンポジウムがあり、つくる会のスタッフも参加してきました。

当日は、仙台会場をメイン会場に釜石・盛岡・山形・東京・ニューヨーク・オタワ・バンコクの７つのサテライト会場と合わせて計８会場で行われました。

午前中は、５名のシンポジストの方による発表がありました。当法人理事長である大川貴子も、シンポジストとして相双地区の現状についての発表を行いました。

児童への支援、大学生ボランティアの取り組みなど、被災地への様々な支援についてお話をうかがうことができました。

午後は、こころがけのスタッフとつくる会のスタッフによる交流会が行われました。

顔合わせの意味はもちろん、これまであまり交流する機会のなかった２つの団体が、それぞれの活動や想いを語るいい機会になったと思います。

同じ被災３県で支援活動を行うNPO法人として、これからも連携して活動していきたいと思います。

（文責　菜摘）

平成二十五年も、残すところあと一ヵ月となりました。

今年度もたくさんの方のご協力を得て、訪問活動・サロン活動をはじめ、講演会、イベント等様々な活動を行うことができました。この場で感謝申し上げます。

記事の中でも申し上げたように、来年度からは訪問看護ステーションという事業が始まり、新たなステージが始まります。地域のみなさんと「協働」して頑張りたいと思いますので。これからもどうぞよろしくお願い致します。

編集員　里美